

今週（11月18日から11月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期序盤ではあったものの、資金調達意欲が強く、レートは週末にかけて上昇していった。週初18日は、短国発行日等の要因があったものの、取り手の資金調達意欲は弱く、レートは▲0.065%中心の取引で始まった。しかし、その後は、レートがじりじりと上昇し、20日には短国1Yの発行日等の要因があったことから、レートは▲0.05%中心での出会いとなった。22日は、週末要因で資金調達意欲が強まり、レートは更に上昇した。日銀当座預金残高は、週を通じて400兆円台前半から半ばでの推移となった。無担保コールO/N物の取引レートは、地銀・証券業態は▲0.087～▲0.025%、都銀・信託業態は▲0.08～▲0.035%と幅広い出会いとなった。ターム物に関しては、ショートターム物で、散発的に、▲0.04～▲0.02%の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、22日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額6,216億円（期落ち額4,526億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.090～▲0.060%のレンジでの取引となった。積み期間の序盤であるが、業者の在庫ファンディングニーズに加え、投資家の資金調達が入り、売物はしっかりとした展開であった。

SCは個別銘柄では2y402～2y406、5y133～141、10y336～356、20y164～170、30y59～64、40y11～12など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給環境の改善が見られる中、3M物が▲0.220%で出合うなど先週に引き続きしっかりした展開となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.210～▲0.200%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.2000%、按分落札利回▲0.1911%と、前回債からレートが低下する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.203～▲0.200%の出会いと堅調に推移した。

21日に実施された短国買入オペは、1,000億円でおファーされた。平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差+0.002%と落ち着いた結果となった。

22日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.245～▲0.230%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.2263%、按分落札利回▲0.2103%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.220%出会いと按分レート近辺で推移している。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、卸売、機械等の複数業態でまとまった額の調達が見られ、週間発行総額は8,300億円程度と償還額5,100億円程度を上回った。市場発行残高は、21日に20兆円5,406億円程度に達し、ゆるやかながら順調に伸びている。発行レートについては、発行残高が積み上がっている銘柄の期内物が上昇する一方、発行頻度の低い物、発行残高の少ない物のうち、期を越えるものでマイナスを深掘りする動きが見られた。

19日にはCP等買入オペが4,000億円オファーされた。19日にはCP等買入オペが4,000億円オファーされた。一般事業法人の増加が限定的であることからか、結果は按分落札レート▲0.002%と前回（按分▲0.001%）比で僅かながら低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/18 (月)	23,416.76	△ 0.090	108.80	△ 0.058	△ 0.077	4,042,600
11/19 (火)	23,292.65	△ 0.095	108.53	△ 0.054	△ 0.078	4,036,500
11/20 (水)	23,148.57	△ 0.114	108.50	△ 0.047	△ 0.081	4,053,600
11/21 (木)	23,038.58	△ 0.115	108.48	△ 0.039	△ 0.090	4,039,600
11/22 (金)	23,112.88	△ 0.085	108.66	△ 0.030	△ 0.078	4,046,000

来週（11月25日から11月29日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/25 (月)	9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				
11/26 (火)	10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 4,000億円 11/27発行			9月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米新築一戸建て販売件数 11月の米CB消費者信頼感指数
11/27 (水)	兵庫県金融経済懇談会において櫻井審議委員講演				米ページブック 7-9月期の米GDP改定値 10月の米耐久財新規受注 10月の米個人所得・消費支出
11/28 (木)	10月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 20,000億円 12/2発行			New York祝日(Thanksgiving Day)
11/29 (金)	10月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 11月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 10月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 10月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 11月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 42,800億円 12/2発行			11月のシカゴPM景況感指数 11月のユーロ圏消費者物価指数速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/25 (月)	300	▲ 4,900	▲ 4,600	全店共通 CP買入 社債買入 国債補充	▲ 4,500 ▲ 400 ▲ 400 900	6,200	1,800	▲ 2,800	TB3M発行▲43100償還38800 流動性供給発行▲6000 国有林野借入▲800償還500
11/26 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
11/27 (水)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	40Y発行▲4000
11/28 (木)	▲ 2,000	0	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
11/29 (金)	▲ 300	6,600	6,300	社債買入		1,000	1,000	7,300	地方法人特別税 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,000	▲ 3,300	▲ 6,300	—	▲ 4,400	7,200	2,800	▲ 3,500	

11/25は日銀予想、11/26以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、25日に短国発行、27日に40年債発行等の要因がある。今積み期間は揚げ要因が多く、引き続き無担保コールO/Nは高めの水準での取引になると考えられる。月末の29日はビッドが減少すると見込まれるが、レートに大きな変化は無いと見られる。レポ市場は、足元GCIは引き続き業者、投資家の資金調達が継続していくと思われる。月末を挟む警戒感も薄く、▲0.100～▲0.050%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、29日に3M物の入札が実施予定となっている。堅調な相場がどこまで継続するか、市場動向が注目される。CP市場は月末週に当たり、活況なマーケットになることが予想される。12月はCP等買入オペが各3,000億円で3回実施される予定であり、市場ではオペの按分レートの低下を期待する声もきかれる。オペを見込んだ積極的な買いが入れば、期越物を中心に一部対象銘柄ではレートが低下する展開も考えられる。一方、足元では発行残高が膨らんでいる銘柄でレートが上昇する動きもみられており、0%を中心としたレンジの中で若干レート差が生じることが予想される。

主要なイベントとしては、国内では29日の11月の都区部消費者物価指数、海外では27日のページブック、7-9月の米GDP改定値、29日の11月のユーロ圏CPI速報値などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入